

新年のご挨拶

全日本印刷工業組合連合会
会長 白田 真人

明けましておめでとうございます。

旧年中は当連合会に格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、昨年10月に開催いたしました「2018 全日本印刷文化典高知大会」には、全国から540名を超える方々にお集まりいただき、全印工連の団結と協調、さらには将来の業界発展に向けての課題や方向性を再確認することができましたことは、全国の印刷工業組合の役員、組合員、関連業界の皆様のご理解とご協力の賜物と深く感謝を申し上げます。

さて、「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」や「育児や介護との両立など、働き方のニーズの多様化」への対応に直面している現在、投資やイノベーションによる生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境を作ることが、働き方改革の重要な課題になっています。こうした中、この課題解決のため、働く方の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く方一人ひとりがより良い将来の展望を持てるようにすることを目指していくため、先般、働き方改革関連法案と呼ばれる一連の労働法改正が成立しました。

このように労働環境が激変する中、全印工連では、組合員企業の従業員がやりがいを持ち、安心して働き続けられる職場作りによって、新たな付加価値を創出し、顧客満足度を高め、ひいては組合員企業の業績向上につながる Happiness Company を目指していただくことを目的に、「幸せな働き方改革プロジェクトチーム」を立ち上げ、ステップ1からステップ5のプロセスを構築し、全組合員への発信を続けているところです。新しい働き方改革、そして、幸せな働き方改革、これを実現するためには、いくつかのプロセスが必要となりますが、取組みは経営者の決断となります。緊張が張りつめた会社からコミュニケーションが図れる心理的安全性の高い職場へと変え、新しいイノベーション、新しいビジネスを生み出す企業への転換が急がれます。

本年も引き続き、当連合会のブランドスローガン「Happy Industry 人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業」へとつながる、待ったなしの「働き方改革」をさらに推進するとともに、構想から10年、事業を立ち上げて3年目を迎え軌道に乗りつつある事業承継支援、さらには、大きな進展を見せた知的財産権保護の促進、併せて、中小印刷産業振興議員連盟との連携による官公需の取引改善、資材値上げ問題への対応など、全印工連の大きな組織力を存分に活かした事業活動に全力を挙げて取り組み、全国の組合員企業の皆様のお役に立てるよう一層精進してまいります。

新しい元号となる2019年が皆様にとって明るく希望に満ちた素晴らしい一年となりますよう心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。